

連携中枢都市圏ビジョンに係るキーワード・キープレーズ

都市圏の将来像について（市町提案キーワード・キープレーズ一覧）

	都市圏の将来像の要素	都市圏の将来像のキャッチフレーズ
岡山市	<p>○活力にあふれ、住んでみたい、住みつけたい圏域 （提案理由：活力ある地域経済・社会を形成し、外から人を呼び込む魅力があると同時に、住民にとって住みやすい都市圏を目指すため。）</p> <p>○交流による様々な分野での成長 （提案理由：異なる視点、考え方を交流により得ることで、お互いが成長し、政策実現能力を高め、ひいては住民サービスへの向上につながることを目指すため。）</p> <p>○協働して課題解決の取組がすすむ都市圏 （提案理由：圏域住民が連携中枢都市圏に期待することは、将来的により良い生活を実現することであり、その実現のためには、圏域内の住民や市民活動団体等が自治体の枠を超えて、解決すべき課題を共有し、解決のために知恵と力を合わせていくことができるように、都市圏の住民力が一層発揮され、協働して地域づくりに取り組むことができるように連携していくことが有効であると考えられるため。）</p> <p>○共鳴と協働により新たな豊かさを生み出す圏域 （提案理由：今までほとんど縁のない市町が寄り集まっても課題や資源を共有し響きあい、住民も含めネットワークを創出し、協働することにより新しい価値と豊かさを生み出すことができることに連携中枢都市圏の意味があると思われるため。）</p> <p>○協力し、助けあう、心触れ合う暮らしやすい圏域 （提案理由：圏域の市町や住民が、お互いに協力し、助け合うことで、相互理解を進め、より少ない負担で住民サービスを利用できる心豊かな暮らしやすい環境を創出することに資すると考えられるため。各市町の特性を他市町へ発信することにより、相互の生活レベルの向上をはかる。）</p> <p>○各市町の活性化、定住人口の増加、人が賑わう圏域 （提案理由：国内外からの人の来訪により、各市町の活性化、定住等の相乗効果が期待され、圏域全体へと波及すると思われるため。）</p> <p>○豊かな個性で支えあう暮らしやすい都市圏 （提案理由：各地域の個性が支えあう（結びつく）ことで圏域全体が「元気になり」「暮らしやすくなる」と考えるため。）</p> <p>○人と物の交流が広がり未来へ躍動する都市圏 （提案理由：交通ネットワークが強化されることにより、圏域内へ物流拠点の企業立地が促進されるなど、経済の活性化が図られるとともに、雇用拡大も見込まれると考えるため。）</p> <p>○学び続ける人を育む圏域 （提案理由：学びに関するつながりを密にし、ハード、ソフト両面において、それぞれの自治体が持つ資源を共有することで、子どもも大人も学び続ける環境をつくることができると考えられるため。）</p>	<p>○人でつながり、人がつくる （提案理由：ビジョンの策定と実現にむけて、人が中心であることを表現したいため。）</p> <p>○自由につながる （提案理由：市町のつながりや人・物の流れを有機的に表現したいため。）</p> <p>○協働で住民力の発揮をすすめよう （提案理由：圏域内の住民や活動団体をはじめ多様な主体が社会課題解決の取組に関する情報を共有し、それぞれの取組に役立てたり、協働して課題解決に取り組むことを進めることで課題解決のための知恵と力を集める協働力、住民力を高め、発揮していくことをすすめたいため。）</p> <p>○人の流れのさらなる加速 （提案理由：圏域は既に人口減少状況に転じていることから、かかる減少を可能な限り抑制することで、より活力にあふれた、「住みやすく、住み続けたい圏域」へとソフトランディングさせるため。）</p> <p>○縁を結び新しい価値を創造する （提案理由：連携中枢で初めて結ばれた縁により、今まで単独では生み出せなかった新しい価値を創造することを表現したいため。）</p> <p>○自然のゆとりを感じる （提案理由：各市町共通してイメージしやすいフレーズであるため。）</p> <p>○生産性革命で経済成長を！ （提案理由：広域的な交通ネットワークを強化することで、人流や物流の効率化を促進し、圏域内の生産性が向上されるため。）</p> <p>○「まちをつなぎ「ひと」を結ぶ （提案理由：圏域の交流を促進し、住民同士のつながりを深めることで、地域への愛着を強めることを目的とするため。）</p> <p>○地域への愛着 （提案理由：各市町の観光資源を発掘し見直すことにより、そこへ人が集まることへの喜び等各市町の住人の想いが生じると考えられるため。）</p>
津山市	<p>○「住みやすい、暮らしやすい」圏域 （提案理由：一人ひとりの住民が思い思いのライフスタイルを実現させていくことができる地域づくりが必要であるため。）</p>	<p>○暮らしやすさ、最高。吉備の国 （提案理由：この都市圏の良さは、古代より歴史を共有し、地域資源を活用した県南と県北の交流がなされていたことである。あらためて、地理的特性を活かし、地域資源をつなぎ、交流と連携を深めていくことで、この地域の暮らしやすさを高め、住みやすいと思われるまちづくりを進めたいため。）</p>
玉野市	<p>○多彩な「まち」・「ひと」・「もの」が絡み合い、新たな魅力を生み出す圏域</p> <p>○「海・山・まち」の多彩な地域資源を活かした大きな広がりのある圏域</p> <p>○「海・山・まち」の多彩な魅力が溢れ出す圏域</p>	<p>○「まち」・「ひと」・「もの」の好循環 （提案理由：参加自治体の「まち」・「ひと」・「もの」などの地域特性を活かし、それらを効果的かつ効率的に連携することで、市民サービスや生活利便性の向上、圏域全体の経済の活性化が達成され、新たな魅力の創出に繋がるものと考えたため。）</p> <p>○ぼっけえ でつけえ れんけえ都市圏 （提案理由：「海」「山」「まち」の多彩な地域特性や地域資源を有する圏域の個性・魅力を存分に活用した連携であることを表現したいため。）</p>
総社市	—	<p>○桃太郎連携</p> <p>○備前・備中・美作三国連携(同盟)</p>
備前市	<p>○ひとづくり・まちづくり推進圏域 （提案理由：圏域の住民、活動団体等が連携し、協働によるまちづくりの推進を期待するため。）</p>	<p>○みんなで協働日本一 （提案理由：日本一の市民活動圏域を目指すため。）</p>
瀬戸内市	<p>○「このまちにまた来たい」、「このまちで家族と暮らしたい」と思われるまちづくり （提案理由：一過性の取り組みではなく、将来にわたり住みたいと思える取り組みを行い、連携地域全体のスキルアップを目指すため。）</p>	<p>○時代やニーズに合ったまちづくり （提案理由：今後少子高齢化は進み、人口も減少すると思われるが、その中でも人々が生きがいを感じ、また、住んでいる地域に誇りをもってもらえるようなまちづくりを目指すため。）</p>

	都市圏の将来像の要素	都市圏の将来像のキャッチフレーズ
赤磐市	—	○信頼で築く岡山都市圏 ○信頼と絆で繋がる岡山都市圏
真庭市	○選ばれる圏域 (提案理由: 選んでもらうのではなく、選ばれる圏域を目指していかなければならないため。) ○日本をリードする圏域 (提案理由: 圏域全体の経済成長を真に促していくためには、国内全体を意識していかなければならないため。) ○誰もが住んでみたい圏域 (提案理由: すべての人が安心して安全な暮らしを営むことができる圏域を目指していかなければならないため。)	○相互の共生の意識とつながり (提案理由: 相互に尊重し支え合い、人々の多彩な在り方を相互に認め合える意識を醸成し、住民との協働による全員参加型のつながりのある圏域であることを表現したため。) ○都市と自然の調和 (提案理由: 国立公園 蒜山、瀬戸内海国立公園という二つの国立公園の間に人々の暮らしがある様子を表現したため。) ○清流が紡ぎ、農山村と都市とが共生する岡山都市圏 (提案理由: 水の流れが人々の暮らしや経済を紡ぎ、流れる途中で縫い合されることでより強い結びつきが生まれ、そして結びつけられた人々がともに生かし合う様子を表現したため。)
和気町	○暮らしの満足度向上	○安心して暮らせる社会 ○安心して暮らせる圏域
早島町	○穏やかな暮らしが続く圏域 ○住み続けたい圏域 ○どんなときも自然体でいれるまち ○いつまでも変わらない 心安らぐ故郷 ○老若男女 笑顔絶えない場所づくり ○人を惹きよせる魅力にあふれ、戦略と創造で未来を拓き、ずっと住み続けたい岡山広域圏 (提案理由: 圏域住民が連携中枢都市圏に期待することは、明るい未来、未来がいかに良くなるかという点が大きいと思われるため。)	○古き伝統と新しい技術の交流 ○つながるひろがる生活圏 (提案理由: 互いに助け合う生活圏としてのつながりを表現したため。) ○向こう三軒両隣「醤油貸して」のお隣連携 (提案理由: 互いに助け合う生活圏としてのつながりを表現したため。) ○集まれば、星は星座に、我らは中枢都市圏に (提案理由: 個々の市町が輝き、つながることで、中枢都市圏としての魅力を発信していく未来像を表現したため。) ○人が町をつくる 人が暮らしをつくる 人が未来をつくる ○岡山Co作り計画～Coの力を高める～ (cooperation【連携】、competition【競争】、collaboration【協力】) ○「繋がりとお知でずっと住み続けたい岡山広域圏「ほっけーいいで！」 (提案理由: 市町の繋がりとお知が圏域を魅力あるものとし、岡山らしさを出すために方言を最後に加えたいと考えたため。)
久米南町	○あなたに合った生活で、暮らしやすい圏域連携 ○ちょっとお出かけしたくなる暮らし ○ココになくてもソコにある (提案理由: 各自治体が特色ある行政サービスを提供することで、多彩な生活スタイルに溢れつつ、圏域単位で生活機能を補完するため。生活を自治体単位ではなく、特色あるまちづくりを展開する圏域で考えるため、遠出ではなく、ちょっとお出かけがしたくなるイメージ。自治体は、無理をしてまで自己完結機能を備えるのではないという、根本的な意識を訴求するため。)	○行きたくなるまち、住みたくなるまち (提案理由: 交流人口と定住人口を圏域で循環させることをイメージしたため。)
美咲町	○地域の魅力をつなぐ広域連携 (提案理由: 各市町の魅力を発信することにより住民生活スタイルと自然環境や地域資源の共有を図ることができるため。)	○広がる生活圏域 (提案理由: 車社会や公共交通機関の利用により生活圏域も広範囲に広がりを見せるため。)
吉備中央町	○子どもたちの笑い声があふれ、移住したくなるまちづくり	○おかやまの魅力を世界に (提案理由: 日本古来の和文化の再発見と、ムスリム観光客を中心としたインバウンドを取り組んだ広域観光をイメージしたため。) ○「医療」と「田舎体験」の融合 (提案理由: 豊かな自然を通じたメンタルヘルスの取り組みをイメージしたため。) ○「移住・定住」と「子育て」の調和 (提案理由: 全国に向けての発信と、切れ目のない支援の取り組みをイメージしたため。)